

平成25年度すぎなみ大人塾 月・土曜合同成果発表会

平成26年3月15日(土)午後13:30~

会場 セシオン杉並 第8・9・10集会室

司会：杉並区社会教育主事 中曽根聡

ご参加いただきまして、ありがとうございます。今年も、こうして盛大に成果発表会を出来ることを嬉しく思っております。まず初めに、杉並区教育委員会事務局生涯学習スポーツ担当部長の本橋より、開会の挨拶をいただきます。

開会挨拶

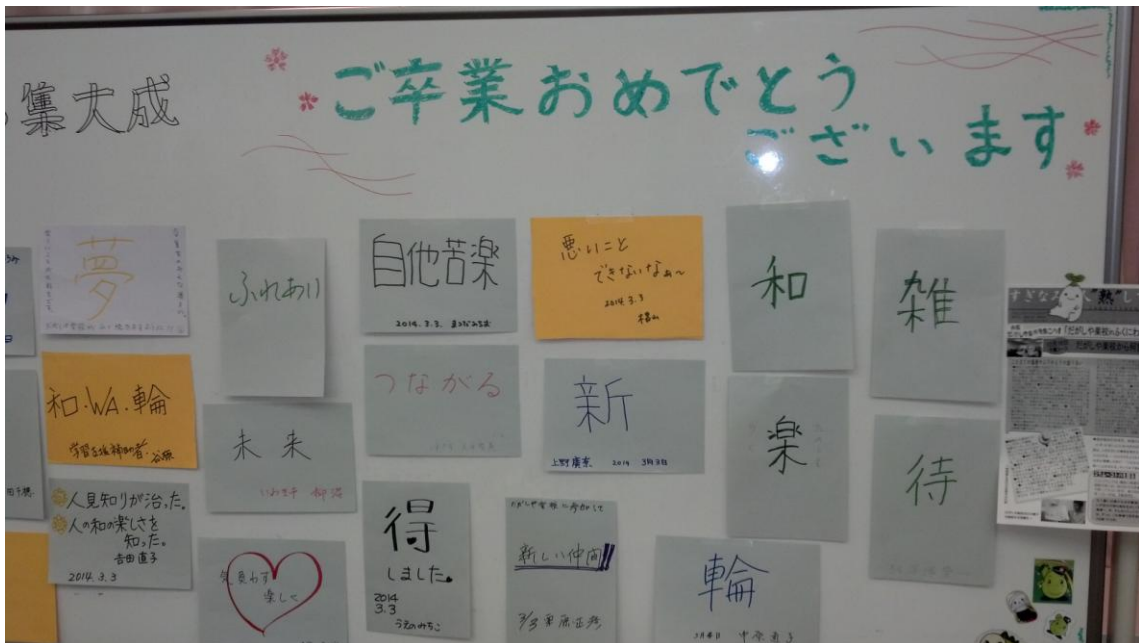
杉並区教育委員会事務局生涯学習スポーツ担当部長 本橋正敏

みなさま、こんにちわ。お集まり頂き、ありがとうございます。5月18日の西荻地域区民センターの記念講演からはじまりました今年度の大人塾開講記念講演会は齋藤孝先生の講演でしたね。「つながりを育む雑談力」がテーマでした。大変興味深いテーマで、特につながりという言葉が注目されました。社会教育関係の仕事をしていると、人と人、人と本、人と地域をつなげるのが社会教育の現場だと、最近になってようやく気付かせて頂きました。地元が一番近い区役所の仕事は、人をつなげ、地域を良くしていくことだとわかってきたのです。社会福祉という雑誌があります。ワークライフバランスのことを特集しておりましたが、日本のそれとは少し異なっているようです。その中で、ヨーロッパでは、自分で働いてお金を稼ぐ時間と社会に貢献する時間を分けて考えているようです。稼ぎと勤めと江戸時代の人々は言っていましたね。稼ぎが出来て半人前、勤めが出来て半人前。両方で一人前。みなさまは、実際に実践していらっしゃるんだなと感じております。大人塾は、「自分をふりかえり、社会とのつながりを見つける大人の放課後」をモットーに行っております。ふりかえって、社会とのつながりを考えて頂き、半年間、学んだ結果を発表して頂きたいと思います。学びを新しい人と出会い、わかちあい、良い杉並作りにつながっていったら幸いです。議会から質問があり、学校の土曜授業で大人塾の卒業生を招きたいという案も出ています。そういうつながりを作れたら、もっと広がると思います、区役所全体も卒業生を見ております。半年間の成果をつなげ、お友達にもぜひ教えてください。よろしく願いいたします。

月曜コースの前期発表

学習支援者： 松田道雄

こんにちわ。だがしや学校というのは、だがし屋をテーマにした学びです。小さい頃のだがし屋があった時代をアイデアのヒントにしています。だがし屋というのは、いろんな要素があって、1つは世代交流。子供とおばあちゃんと年が違う人が会話をする場でもあり、年の離れた子供とも買いに行きますよね。小さなビジネスとしての要素もあって、おばあちゃんでも商品を買っています。また、遊び心があり、お菓子を食べながら、わかちあう、なんとも言えない雰囲気があります。昔あっただがし屋を今風に、出来る範囲で生かしていく。そんな試みです。新たな地域生活を送ろうとやっていますが、ポイントとしては、これで終わらないことです。実際にやっているところは、活動し続けて、町づくりを担っていき、いろんな人につなげています。いろいろな地域同士の交流にもなっております。ほかの地域からもやってきますし、企業も企画を出してくれます。



受講生代表発表

すぎなみ大人塾、自分見せからつながり広がる地域と出会いと題して、全9回開催された講座です。ラジオのように、FMすぎなみをスタートいたします。こんなことをやって参りました。

カルタで杉並のことを知っていきこうと、杉並の風物詩や名物が描かれたカルタを使って楽しみながら学んでいきました。こちらは、手書きの料理カード。食べた料理を、その都度、イラストにしていっしょにします。木工細工は、趣味から始まって本格的に修行された方の作品です。野鳥の絵は、図鑑を見ながら、こんな野鳥が杉並にも増えたら良いなと思いながら描かれています。韓国茶に詳しい方がいっしょだったので、コーン茶を飲んでみたり、いろいろなお茶を試していきました。ピアノの先生もいっしょだったので、ピアノとお茶のコラボもしました。こちらは、好評だったので、3月にまた開催予定です。四つ葉のクローバーのしおりを作ったり、FMすぎなみと題して、様々な方にインタビューをしながら発表していきました。ピアノで交流。山形からのおすそわけもあり、「だがしや楽校 in にこにこロード」ということで、地域デビューも果たしております。盆ダンスや持ち寄りパーティーもいたしました。



いろんなことをやってみて、このままではもったいないと、真剣に話をしました。最後にメンバーの意見を発表させていただきます。

「友達づくりができた。やりたいことが達成できました」

「いろいろ関わりをしてきたが、こういう人の関わりもできるんだとわかりました。」

「卒業をしましたが、地域にとけこんで活動したいと思いました。」

「地域に関わる、良いきっかけになりました。知らない物同士が集まって、気持ちをひとつに出来たのが嬉しい。」

最後に「見上げてごらん夜の星」をみんなで歌ってみましょう。

これからの大人塾の広がりを祈念して、発表を終わらせて頂きます。

学習支援者： 松田道雄

いやー、立て板に水のごとく、流れるようなプレゼンでしたね。ラジオのパーソナリティが本業でいらっしゃいますが、地域との関わりという点からどう感じられましたか？

受講生代表

だがしやのパーソナリティということでやってみましたが、人が好きというところがスタートだと思います。ラジオは人の顔が見えません。なにが変わるか分からない時代に、人と会えてよかった。そういう気持ちが深まりました。そこから、さらなるつながりができると確信いたしました。



月曜コース後期発表

受講生代表発表

たった半年で毎回2時間の講座がアツと言う間でした。新しい人や古い人がいりみだれ、いつも自己紹介をしているような、流動的な人間関係でした。自分見せをキッカケとして、わかちあい体験をしました。特技を披露しあい交流を図り、さらに永福エリアでだがしやを開く準備をしようと、その5日後に出店を練習させて頂きました。子供たちがとても喜んでくれ、こちらも嬉しくなりました。栃木のだがしや楽校も助けに来てくれて、折り紙でいろいろつくってくれました。思い出のあんこのアンケートもとりました。山形から江戸時代の教科書を見せて貰ったり、モンゴル文化と交流したりと、下野、山形、モンゴル、杉並とだがしや楽校から、つながりが広がっていきました。永福町駅の屋上、「ふくにわ」でクリスマスの飾りを体験しました。考える時間がなかったので、考えばかりの人が、殻をやぶれたと思います。だがしや楽校は、実は深いところに関わっているのではと気づきました。企画を考えることや実行することだけではなく、子供の遊び感覚に戻ったのは大人にとっても良いことで新鮮でした。どこかでだがしや楽校を開けないかと思います。最後にみなさんの感想を発表いたします。「おおざっぱに決めて、とにかくやってみよう。」「ゆるいままでもいいんだな。」「新しい自分を発見した。人の輪を楽しめる。」「人間関係を縦、横、斜めの地域のつながり。」ありがとうございました。



土曜コース前期 発表

学習支援者：広石

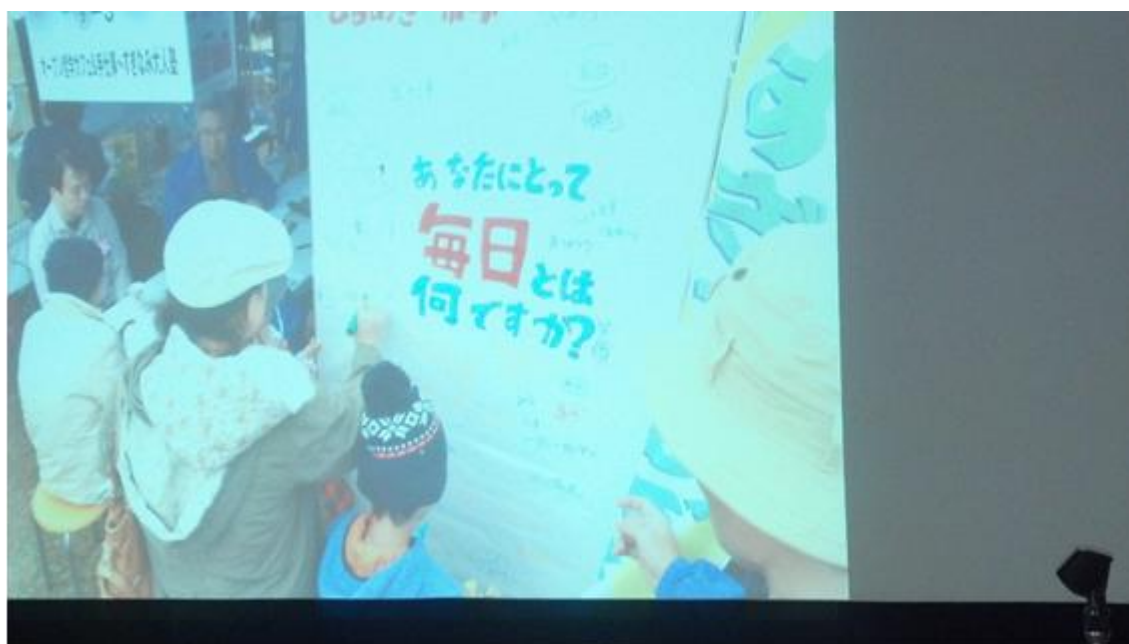
自分を見つめなおす一つとしての哲学を提案しました。正しさと正しさの狭間。どちらが正しいを決めるのではなくて、どちらもちょっと考えてみる。そうすることで、今の視点を超えられます。モノを俯瞰で考えたり、直に考えてみたりと、日頃考えないことを考えたり、日頃と違った方法で考えてみる。こんなことをやってみると、他人の理解も深まって行って、同じように思っても、実際は違うんだなと気づきます。自分の背景、癖なども知れるので、もっと自分にも気づきます。違うからこそ、もっとお互いをわかりあえる。もっとおもしろくなれる。鏡の中の自分が自分である理由を考えてみたり、それを話し合ってみると、いろんな違いがちょっとずつ見えてきます。他の人に聞いてみたいことがたくさんでてくるのです。

受講生代表発表

今回は、哲学対話ということで、問いに対していろんな答えがあることを知りました。「人生の価値、意味とは?」「どこまで助け合うべきか」「日本の若者は幸せか」「車のこない道は渡る?」「ご近所づきあいは必要か」等こんな難しいテーマで、あまり普段は考えないようなことを考える機会を作ってみました。すると、いろんな世代がやってきました。最初は、考えるだけだったのが、だんだんと、違いを見つめることに方向づけたかったのですが、違うからもっとわかりあえるという段階に行くのは難しいと感じました。ただ、参加された方が、その興味をもってくれたのは嬉しかったです。すぎなみフェスタにも参加し、来場者に哲学について考えてもらいました。通りがかりの人に、お題について一言考えを貰うのですが、楽しい会場で哲学を呼びかけるのは難しいので、なるべく惹きつけられるようにボードを付けたり、呼び込みをしました。あなたは、どんな時に幸せを感じますか?強さとはなんなのか。あなたにとって毎日とはなんですか?知らない人があつまって、難しいお題を賢明に考える。運営も大変だったのですが、話している人、考えている人同士が打ち解けあう姿を見ていると、仲良くなるためには一緒に悩む、手を動かすのは大事だなと思いました。哲学に期待することがバラバラだったので、他にやりたい人を呼び込んでも良かったなと思いました。この哲学対話ですが、哲学カフェとして定期的にやれたらと考えています。日ごろ、考えていないことを、知らない人と一緒に考える。朝だけでも良いです。今後は、哲学カフェを地域でやってみたいと思っています。

学習支援者：広石拓司

哲学カフェをしたくなつたと思います。第2部でやってみますのでご参加楽しみにしてください。それでは、よろしくお願いいたします。



土曜コース後期 発表

まちなかアート発見！「ツナガルシクミ」研究部

学習支援者：日沼禎子、坂田太郎（ビデオレター）

みなさん、こんにちは。成果発表当日は、それぞれ別の場所でどうしても外せない行事を仕切らないとならず、今回はビデオレターという形でお話させていただきます。大人塾のお話を頂いたときに、アートを軸にと依頼されました。杉並のコミュニティとアートを考えていったのですが、そもそもコミュニティやアートってなんだろう？と疑問が湧いてきました。そこで、ひとりひとりの発見が大事にしたいと考え、コミュニティの中でアートをみたり、何かをつくるワークショップを試みよう。テーマは、「つながるしくみ」です。いろいろなアートがある中で、つながりに着目しました。身の回りのつながりを考えてみる。まずは三角インタビュー。一対一のインタビューに、もう一人が入ることで違う視点を知る体験も行いました。次に、捨てるはずだったゴミから考える、つながる仕組み。このゴミを見つめなおして、どこからやってきて、どうして手元にやってきたのか。それを踏まえて、本のようなものをつくりました。またみんなでカメラを持って、地域で町の映像を集めて、感想をかわしあいながら、編集もしました。京都で場づくりをしている小山田徹さんをお招きして、共有空間の作り方なども聞かせて頂きました。



受講生代表者発表

とても刺激のある講座でした。ワークショップの会は、工作のワークショップでした。工芸室で工作をすると聞いていたので、みんなで作るのかなと想像しましたが、どのようなルートでゴミがきたのかを、それぞれで考えていきました。予想を覆されたと思い、今度はゴミから本を作ることになります。これも予想外の出来事です。ところが、短い時間の中、みなさん、すごく集中して作り上げました。材料となった物がゴミなので、ゴミがやってきたルートを本にした方や自分の人生を箱のような本にしてみたりと、作りたい衝動にあわせて花をつかった方も。創作意欲の強さに驚きました。これは、工作の設定が引き出したのではと思います。次に、世界初の映像を見ました。世界初の映像を見られるなんて、こんなスゴイことってあるのでしょうか。2本の映像をみて、演出が入るとどう変わるかが分かりました。そして、世界初の映像と同じ設定で、自分たちで映像を町に撮りに行きました。みんなで撮りに行って、みんなで見るのですが、2回目はカメラの位置や撮るものを変えたりと、さまざまな視点で映像を撮ってきました。最後は、みんなで映像を編集。映像を残す希望をききながら、映画監督の先生がならべてくれる贅沢な時間でした。映像の順番をぶつけあって、ストーリーを伝え、説得しあう。できた映像をみて、達成感を感じました。存分に意見をいって出来たという実感と嬉しさがあったのです。本当に刺激の多い講座でした。まちなかアート発見と講座名にありますが、アート作品をつくる、アートイベントをやるのではないので、講座の成果を表現するのは難しいです。しかし、刺激をうけて、日常が変わったと実感した。イベントをしている人は、新たな視点が得られたと思います。本の紹介や、私たちが撮った動画はパソコンでも流れておりますのでご覧ください。



司会：杉並区社会教育主事 中曽根 総

おつかれさまでした。休憩時間をはさんで、卒業生と一緒に哲学カフェをしてみようと思います。休憩は10分ですが、その前に広石さんから説明をいただきます。

学習支援者：広石

哲学対話というと難しく感じますが、テーマは2つです。「あなたにとって幸せとは」、「あなたにとって幸せな地域とは」。どんなことでも結構ですので、思いついたことを他の人とシェアしてみてください。後ろにテーブルがありますので、休憩が終わりましたら、1つの席に7名くらいほどでおかけください。どこでも好きなところにどうぞ。それでは、ご休憩ください。

哲学カフェで交流会

ディスカッションテーマ

A・あなたにとって幸せとは

B・みんなにとって幸せな地域とは

グループ1 A・あなたにとって幸せとは

- ・ 人に認められること
- ・ 心と身体が健康であること
- ・ 仕事をしている時
- ・ 寝ること
- ・ 笑顔
- ・ お金
- ・ 家族で過ごす時
- ・ 平穏無事
- ・ 成長を感じた時
- ・ うまい酒
- ・ なにか出来た時
- ・ 平々凡々



<ディスカッション>

- 「仕事をしている時などは、幸せに感じます。他の人もおっしゃっていますが、人に認められることや、やり遂げた充実感があるのでしょうか。」
- 「健康、笑顔、寝ることなど、身体に関係したものが多そうですね。やっぱり、幸せは健康から生まれるのでは？」
- 「私の幸せは日常です。もし震災にあっていたら、こんなふうみなさんと話していることはないでしょう。そう思うと、普段の生活がすごく有難く思えるのです。」
- 「私も日常に幸せを感じます。ちょっとしたことでも、幸せを感じやすいほうかもしれません。幸せの敷居が低いのかな？」
- 「幸せって、何なのでしょうね？自分が幸せと思ったことでも、他人から見たら些細だったり。他人との比較から幸せを感じるのでしょうか。お金や健康も、つまるところ他人と比べていると思います。」
- 「自分の視点と他人の視点があるということでしょうか。幸せは、まずは自分から出てくると思います。幸せは心にあるものですから。」
- 「身体が思うように動かない高齢の母も、毎日が楽しいと言っています。散歩や日常生活も辛そうなのに。なぜか、楽しいと感じているようです。そんな姿を見ていると、私も元気になってきます。」
- 「金持ちが幸せではないって、よく言いますよね。本当にそうだと思います。お金を持っていても、心が貧しい方もいますし、寂しい人生をおくっている人も多そうです。」

グループ2 B・みんなにとって幸せな地域とは

- ・それぞれの人に居場所があること
- ・美味しい食べ物があること
- ・コミュニケーションがある
- ・楽しい場所がある
- ・互いに顔を知っている
- ・安全安心
- ・安心した暮らしの保証
- ・ゆるい関係がある
- ・支え合いがある
- ・仲間がいる
- ・豊かな町
- ・声掛けが自然とある町
- ・歴史を大事にできる町



<ディスカッション>

- 「一緒に住んでいる人が幸せな場所が、幸せな地域だと思います。近所の人も幸せを感じていれば、全体が幸せになると」
- 「やっぱり、居場所。これにつきます。人間は居場所があることで、幸せを感じる生き物だと思います。」
- 「居場所が多いと、人が集まるので、楽しいことが増えそうですね。」
- 「場所というか、人がいることが幸せの前提のような気がします。しかも、頼れる人だったり、安心できる人がいると住むのもラクになります。」
- 「子供のことを考えると、安全なのが一番です。住みやすさは、便利なだけではなく、安全だと思います。」
- 「他人との関係性が豊かだと、街が幸せになりますよね。オフィス街のように昼間しか人がいない場所は、あまり幸せには見えません。住宅街でも、人のつながりがわからないと幸せとは言えないでしょう。」
- 「昔は、ゆるい関係性があった、いざとなったら頼ったり、いつでも会話をしたりすることがあった。今は、そういうこともなくて残念に思います。」
- 「お互いを知りすぎているのは逆に生きづらいのではないのでしょうか？全部、知られているのは、なんだか恥ずかしいです。適度な距離感が欲しいです。」
- 「杉並は良い街なので、あまり不便を感じませんが、他の町はどうなのでしょう。文化やつながりが無い町に住んでいる人は、どこに幸せを感じるのでしょうか？」

グループ変更後 グループ1 A・あなたにとって幸せとは

- ・達成感
- ・他人と比べた結果違っていること
- ・不幸せを知っていること
- ・平凡ってなんだろう
- ・夢をもつこと
- ・存在できること
- ・感謝できる関係
- ・豊かさを持つこと
- ・心の健康
- ・好きなことをする
- ・エゴ
- ・家族



<ディスカッション>

- 「幸せのことを考えると、病気とか被災した時のことを考えます。そういう状況と今を比べた時に、幸せがわかると思います。自分の時は、経験を比較して、他人とも比較して、幸せの大きさを考えるのではないのでしょうか？」
- 「幸せは自分だけの尺度ではなくて、他人との比較ということなら、何かさびしいように思えます。相手を低くみたら、自分が上に見えるわけですから。」
- 「幸せとは結局のところ、エゴなのです。自分が幸せでいたいというのは、自分の欲求を満たしたいということだと思います。」
- 「のんびり寝ているときなどは幸せを感じます。あんまり、幸せは難しくないものだと思っています。他人との比較とかは分かりません。」
- 「命があるだけでも幸せだと思っています。この年になると、いつお迎えがきてもおかしくないのに、自由に生きられるのは幸せです。今、幸せを実感しています。」
- 「幸せを感じるのは、現在しかないのですから、今やっていることが幸せになるのではないのでしょうか。過去を思い出して、幸せだったなーというのは思い出のように思えます。」
- 「日常に幸せがあると思いますが、平凡な日常とは何なのか分からなくなりました。幸せがあるのは特別なはずです。日常は平凡ですから、幸せがあると、その日だけ特別になるから、覚えているのかもしれませんが。」
- 「そもそも、幸せは何かわからなくなります。存在しているだけで幸せという人もいらっしゃいますし、何かしないと幸せじゃない人もいますし。」

グループ変更後 グループ2 B・みんなにとって幸せな地域とは

- ・人生をずっと過ごしたい場所
- ・いつでも学びが出来る町
- ・平穏な雰囲気
- ・幸せを実感できる町
- ・個人を大事にする
- ・信頼感があるところ
- ・個人の幸せがある
- ・役割があるところ
- ・私の居場所がある
- ・みんなが幸せは無い
- ・共有空間
- ・老人も子供も幸せ



<ディスカッション>

- 「個人の幸せを考えるのと、地域の幸せは違うように思えます。個人の幸せが広がったものが地域の幸せだと単純に考えていましたが。」
- 「個人だと幸せでも、地域から見ると、なんでもないことですよね。豊かな人と、そうではない人もいますのですから、地域全体を幸せにしないとなりません。」
- 「地域全体が幸せでいることはムリじゃないでしょうか。それぞれ生き方も能力も別々なので、全員が幸せでいることは共同体ぐらい？」
- 「共有できる場所があるのは大事だと思います。共有する場所が増えれば増えるほど、自分が幸せと感じる場所が増えるのですから。」
- 「個人の幸せは肉体的なことや精神的なことが多いのですが、地域を考えるとこのような生涯教育の場であったり、税金の使われ方が公正であったりと制度的なこともあると思います。」
- 「ひとりひとりが安心して過ごせるのが地域の幸せでしょう。これ以外にはないと思います。行政も助けをくれて、安心して過ごせるのが一番です。」
- 「大人塾があるのも、ある意味、幸せなことです。他の地域には、こうした学べる場所がないと聞いています。」
- 「老人も子供も安心して過ごせる場所があるだけでなく、成長につながる場所があるのが地域の幸せだと思います。」
- 「自由にコミュニティを作れるのは幸せです。大人塾で学んだ人は、地域で自分たちでコミュニティを作っています。大人塾が増えると町が幸せになるのかも？」

国立教育政策研究所生涯学習政策研究部統括研究官

大人塾アドバイザー 笹井 宏益

大変魅力的な活動だなと、大人塾を見ていると思います。杉並区は本当に面白いです。地域にある生涯学習の場としても、大変先進的な例だと思います。積極的に活動していらっしゃるのが素晴らしいです。ぜひ、これからも続けていきたいと思っています。地域づくりは、つながり作り。これには、地域への愛着が大事です。大事なのは、住んでいる人が好きであること。大人塾は、リアルなコミュニケーションの場であり、議論して、つながる。共感して、実践していく。そういうことを重ねながら、地域をもっと好きになっていく1つになるのではと思います。杉並区にも改めて感謝したいです。この度、集まって頂き、成果を発表して頂いた皆様にも感謝を述べたいと思います。地域への愛着、好奇心が益々高まり、活動やつながりがもっと続くことを期待しています。ありがとうございました。

閉会挨拶

杉並区教育委員会事務局 生涯学習推進課長 濱美奈子

25年度卒業の皆様、おめでとうございます。たくさんの方に集まって頂き、誠にありがとうございました。学ばれた活動を聞いて、また哲学カフェの様子を拝見して、金子みすずさんの「みんな違って、みんないい」を改めて思いました。みんなそれぞれ違って、それぞれが輝いています。今日は、この場で杉並愛にあふれた人が集まりました。良い学校、良い地域を作りたい。みんなが活躍できる場を作りたい。そんなそれぞれ違った思いを持ちながら、地域で活動して頂いているお姿を見ていると、すてきなと思います。良い大人が集まると、良い地域が出来てきます。これは、逆でも同様に、良い地域が出来ると、良い大人が育っていきます。杉並区大人塾で学ばれたこと、興味を持たれたことなどを、おすそわけしながら、どんどん広がっていくことを祈っております。皆様の活動を楽しみにしています。ありがとうございました。ご卒業重ねておめでとうございます。